



令和4年度 商業者ネットワーク構築事業 『あきんど繋がるまちづくり』 開催レポート

v01

「あきんど繋がるまちづくり」は、商店主・商店街による活動の活性化を図るために、共通する課題をテーマにして、「現場で実践するゲストからのトーク」と、「ゲストと参加者によるグループワーク」を通じて、ナビゲーターと共に、課題解決につながるヒントを探る場を提供しています。

第1回 「つながりが生むまちの活性化」

■日時: 令和4年11月10日(木) 14:00-16:00 ■場所: 川崎市総合自治会館
■参加: 11名(ゲスト、ナビゲーターを含む)

1 共通の課題

- ・ 商店街だけではイベントの実施が難しい…、仲間をつくりたいけどどうしたらいいかわからない。
- ・ 近隣の商業者同士、同業種同士がつながって相乗効果をもたらしたいが、どのように進めていくと良いのか。

2 ゲストトーク

梶が谷駅前通り振興会 会長 鈴木 譲 氏

- ・ 東急田園都市線 梶ヶ谷駅前に広がる商店街。1998年、空き巣への防犯対応で商店同士のつながりを強くしようと設立。現在、会員は約70店舗。
- ・ 設立20年ほどなので、設立当時から続いている会員も多く、会員店舗は地元愛が強い。個店も大型店も年会費同額で、同じ“会員”として参加している。
- ・ 街路灯を設置しなかったことで、会費の負担を小さく抑えられ、「灯の範囲」に関係なくつながりが発展していった。イベントに使う備品など、同じ地域で活動する町内会で貸し合うなど良好な関係を築けている。
- ・ 商店街主催の「エルカジまつり」は、現在、年1回、会員の大型店の敷地を中心に開催。エコの理解増進や子どもたちに楽しんでもらえることを意識しており、市役所・区役所・警察・町内会とも連携している。
- ・ 梶ヶ谷駅周辺の飲食店で食べ歩きする「梶バル」。飲食店中心の実行委員会が主催しているが、商店街としてもスポンサー探しで協力している。仲間への協力の意識が高い。



新丸子路地裏連合 代表 久門 易 氏

- ・ 東急東横線 新丸子駅周辺の5店舗6名が「たのしいお店があつまって、新丸子をもっとたのしく」を合言葉に、2019年発足。もともと活動していた商業グループがあり、その活動の後を引き継いだ形。
- ・ 店舗を回遊して知ってもらうことを目的に、商店街の枠を越えたスタンプラリーを市や県の補助を活用しながら2020年3月から4年続けて実施中。
- ・ 店舗のことより深く知ってもらうことを目的に、2021年は33店舗掲載の「深堀りガイドブック」を3000部制作。2022年は店舗、福祉施設、小学校を取材し、町全体のSDGsの取組が分かる「SDGsガイドブック」を4,000部発行。共に近隣小学校にも無料配布した。小学校とのつながりが深まった。
- ・ 今後の課題としては、活動の継続、商店街や町内会との連携、地域外からの来訪者を増やしたいなどである。



3 グループワーク

ゲストトークをもとに、参加者個々の思いを声に出し、意見交換することで新たな発見をすることを目的に、「地域に根差す/SDGs」と「前向きな仲間づくり」の2テーマでゲストを交えたグループワーク(意見交換)を行いました。

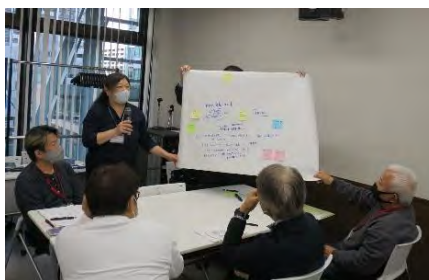
第1班 地域に根ざす／SDGs

- ・ 地域に根ざすことはSDGsが長続きすることであり、SDGsは後から自然と付いてくるもの。
- ・ 商店街は横並びの専門店街であることに気がついた。それぞれの店舗の想いが仲間づくりへつながっていく。
- ・ 相手と接する際は、冊子を手渡しするといった一工夫で興味・関心を持ってもらえる良い機会となる。



第2班 前向きな仲間づくり

- ・ 商店街のエリアに関わらず近隣で仲間づくりをしたい場合、一緒に楽しめる人と始めること。仲間、人間関係は商売をするうえで財産となっていく。
- ・ 商店主も住民であり、町内会や団体等との関係づくりを担う役割がある。
- ・ 初めに物事を起こすのは大変だが、その一歩が大切。



ヒント

4 課題解決のヒント(議論のまとめ)

- ・ その街の特徴に合わせた活動が継続の秘訣。(他の地域と同じイベントをただ持ってくれば良いのではない。)
- ・ 近隣の店舗同士が仲間となって街に活気が生まれると集客につながる点は各地で共通する。
- ・ 地域をあげてイベントを開催するには、関係者の理解と協力を得ることに苦労が尽きないが、丁寧に説明を続けていくことで得られる信頼感が大きい。
- ・ 地域に活気があると、お客様(住民)が地域内に留まり、まちづくりの原動力となって好循環が生まれる。
- ・ 少人数からでも活動を始められる。小さなつながりを如何に広げていくかが大事。